

超音波検査実績

超音波診断報告書抄録

受験者氏名 超音波 太郎

抄 録 番 号	1	年 齢	82	性 別	男性																																																										
検 査 年 月 日	201×年 ○月 △日			疾患コード	G-1																																																										
施 設 名	日本超音波医学会病院																																																														
[超音波検査所見] 右頸動脈: ・右総頸動脈に1.6mmの等輝度不均質プラークを認める。存在位置は、短軸では外頸-内頸線から約+140度、長軸では分岐部より30mmで、長さが10mmのプラークである。 ・右頸動脈洞から内頸動脈起始部にかけて狭窄あり。最狭窄部の最大血流速度は約408cm/sと有意狭窄(NASCET法70%以上)であり、同部位のプラーク性状は低、等、高輝度成分の入り交じった低輝度不均質プラークである。プラーク自体には可動性部分なし、潰瘍成分なし。 狭窄部にはまり込むように可動性血栓を認める。血栓は狭窄部より近位側、遠位側ともに動いている。 左頸動脈: ・左頸動脈洞に2.2mmの等輝度不均質プラークを認める。 椎骨動脈: ・両側椎骨動脈に異常所見なし。																																																															
max IMT : 最大内中膜厚, PSV : 収縮期最大血流速度, EDV : 拡張末期血流速度, mean V : 平均血流速度, PI : pulsatility index, RI : resistance index, NASCET : North American Symptomatic Carotid Endarterectomy Trial <table border="1" style="width: 50%;"> <thead> <tr> <th>血管</th> <th>測定項目</th> <th>右</th> <th>左</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">総頸動脈</td> <td>血管径 (mm)</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>max IMT (mm)</td> <td>1.6</td> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td>IMT-C10 (mm)</td> <td>0.8</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>PSV (cm/s)</td> <td>35</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>EDV (cm/s)</td> <td>10</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>PI</td> <td>1.47</td> <td>1.57</td> </tr> <tr> <td>RI</td> <td>0.71</td> <td>0.76</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">内頸動脈 (右は狭窄部)</td> <td>PSV (cm/s)</td> <td>408</td> <td>113</td> </tr> <tr> <td>EDV (cm/s)</td> <td>143</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>PI</td> <td>-</td> <td>1.29</td> </tr> <tr> <td>RI</td> <td>-</td> <td>0.69</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">椎骨動脈</td> <td>血管径 (mm)</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>PSV (cm/s)</td> <td>50</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>EDV (cm/s)</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>mean V (cm/s)</td> <td>23</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>PI</td> <td>1.71</td> <td>1.49</td> </tr> <tr> <td>RI</td> <td>0.78</td> <td>0.75</td> </tr> </tbody> </table>						血管	測定項目	右	左	総頸動脈	血管径 (mm)	7	6	max IMT (mm)	1.6	1.2	IMT-C10 (mm)	0.8	0.6	PSV (cm/s)	35	108	EDV (cm/s)	10	26	PI	1.47	1.57	RI	0.71	0.76	内頸動脈 (右は狭窄部)	PSV (cm/s)	408	113	EDV (cm/s)	143	35	PI	-	1.29	RI	-	0.69	椎骨動脈	血管径 (mm)	4	4	PSV (cm/s)	50	45	EDV (cm/s)	11	11	mean V (cm/s)	23	23	PI	1.71	1.49	RI	0.78	0.75
血管	測定項目	右	左																																																												
総頸動脈	血管径 (mm)	7	6																																																												
	max IMT (mm)	1.6	1.2																																																												
	IMT-C10 (mm)	0.8	0.6																																																												
	PSV (cm/s)	35	108																																																												
	EDV (cm/s)	10	26																																																												
	PI	1.47	1.57																																																												
	RI	0.71	0.76																																																												
内頸動脈 (右は狭窄部)	PSV (cm/s)	408	113																																																												
	EDV (cm/s)	143	35																																																												
	PI	-	1.29																																																												
	RI	-	0.69																																																												
椎骨動脈	血管径 (mm)	4	4																																																												
	PSV (cm/s)	50	45																																																												
	EDV (cm/s)	11	11																																																												
	mean V (cm/s)	23	23																																																												
	PI	1.71	1.49																																																												
	RI	0.78	0.75																																																												
超 音 波 診 断 *	右内頸動脈狭窄, 右内頸動脈血栓, 両側頸動脈プラーク																																																														

抄 録 番 号	1	受 験 者 氏 名	超音波 太郎
[主訴・臨床経過・血液検査・他の画像所見・手術所見・考察など] 主訴：右共同偏視，左片麻痺 臨床経過： 現病歴：201×年○月△日15時30分頃より左上下肢が動いていないことに気づき，当院受診．頭部MRIを施行したところ，右前頭葉，頭頂葉に散在性脳梗塞を認め，同日入院となった． 既往歴：慢性腎不全，陳旧性心筋梗塞 一般身体所見：身長158cm，体重44.4kg，BMI 17.6，血圧 125/61 mmHg，脈拍 87回/分，整，体温 36.5℃，呼吸数 17回/分，SpO₂ 99%（room air） 意識障害（I-I/JCS），眼瞼結膜貧血なし，心音 清，肺音 清，頸部雑音なし，右共同偏視，左片麻痺あり 血液検査： 末梢血：WBC 6,140/μL，RBC 423$\times 10^4$/μL，Hb 14.1 g/dL，Ht 42.9%，Plt 15.7$\times 10^4$/μL 凝固系：PT-INR 1.09，aPTT 31.3 sec，D-ダイマー 2.2 μg/mL 生化学：AST 17 U/L，ALT 20 U/L，LD 183 U/L，TP 8.1 g/dL，Alb 4.4 g/dL，BUN 60.3 mg/dL，Cr 6.69 mg/dL，Na 138.7 mmol/l，K 3.81 mmol/l，Cl 96.4 mmol/l，Ca 8.8 mg/dL，LDL-C 102 mg/dL，TG 120 mg/dL，HDL-C 46 mg/dL，Glu 130 mg/dL，HbA1c 5.3%，CRP 0.28 mg/dL，BNP 259.6 pg/mL その他の画像所見： 頭部MRI：右前頭葉から頭頂葉に時相の異なる拡散強調画像，FLAIR高信号あり．急性期脳梗塞を考える． 頭頸部MRA：右総頸動脈以遠の途絶あり．右中大脳動脈は開通している． 経胸壁心臓超音波検査：CABG術後，LV dysfunction．左心耳内血栓ははっきりしない． 経食道心臓超音波検査：左心耳内に可動性のある血栓あり．バルサルバ負荷にて卵円孔開存による右左シャントを確認． 下肢静脈超音波検査：明らかな深部静脈血栓なし． 右前頭葉，頭頂葉の急性期脳梗塞にて受診．右内頸動脈起始部閉塞を認めた患者．入院11ヶ月前の超音波所見では右内頸動脈起始部に等輝度プラークあり．同部位のPSV81cm/sと有意な上昇は認めなかった．第1病日の超音波検査では狭窄部の中央に可動性血栓を認め，血流はほとんど認めなかった．今回施行した超音波検査は第3病日だが，右内頸動脈起始部の中央に可動性血栓を認め，可動部が明瞭になっていた．MRI所見にて時相の異なる梗塞巣を認めたこと，血栓の可動部が大きくなっていたことより，同日緊急で頸動脈内膜剥離術＋血栓摘除術を施行した．摘除した血栓は血腫像のみであり，プラーク破綻は認めなかった．血栓源検索を行ったところ，経食道心臓超音波検査にて左心耳内に可動性血栓を認めた．本患者の病態は左房内血栓が遊離し，もともと存在していた右内頸動脈狭窄部に血栓がはまり込み，一部が剥離して脳梗塞を来したと判断できた．脳梗塞の原因精査で行う頸動脈超音波検査において，要注意プラークの存在評価は重要な意味を持つ．本患者では頻回の頸動脈超音波検査により，プラークと血栓の鑑別ができ，血栓形状の変化により真の病態把握，早急な治療方針の決定に役立った．			
最 終 診 断 *	右内頸動脈血栓症，右内頸動脈狭窄症，両側頸動脈硬化症		

公益社団法人日本超音波医学会理事長 殿

公益社団法人日本超音波医学会の定める超音波指導検査士（血管領域）認定試験を受験する基準に十分な抄録であることを認めます。

公益社団法人日本超音波医学会
認定超音波指導医または代議員氏名

(自署)

〇〇

△△

印

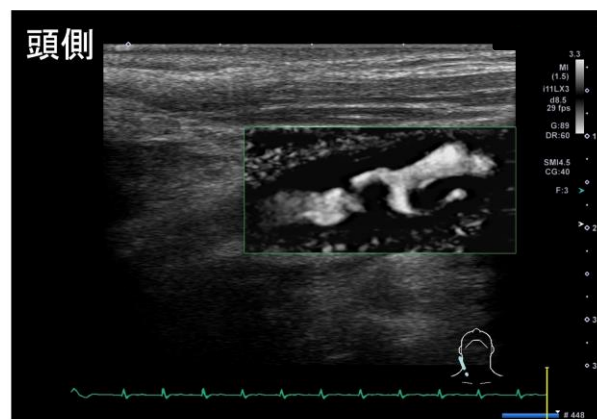
指導医の場合記入してください（SJSUMNo - ■■）

[写真貼付欄]

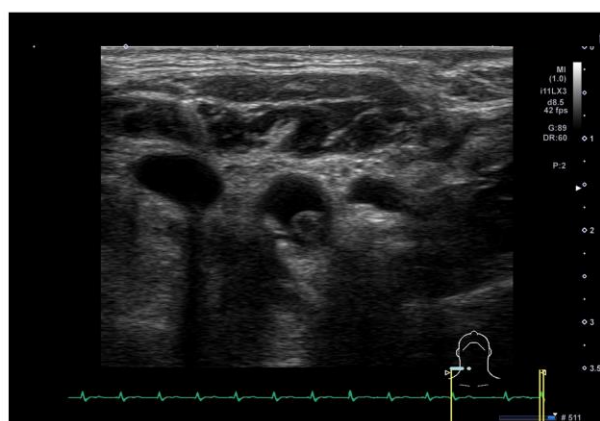
※写真裏面に、受験者氏名・受験領域・抄録番号を付記し、はがれないように貼付すること。あるいは、電子画像をコピー&ペーストで貼り付けてもよい。（写真は1症例につき6枚以内とする）。



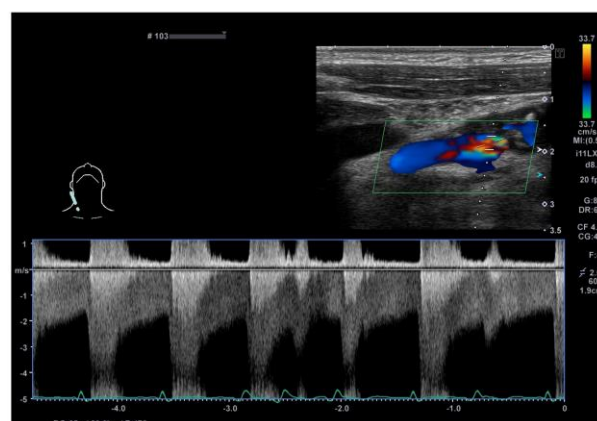
右内頸動脈長軸像



右内頸動脈長軸SMI像



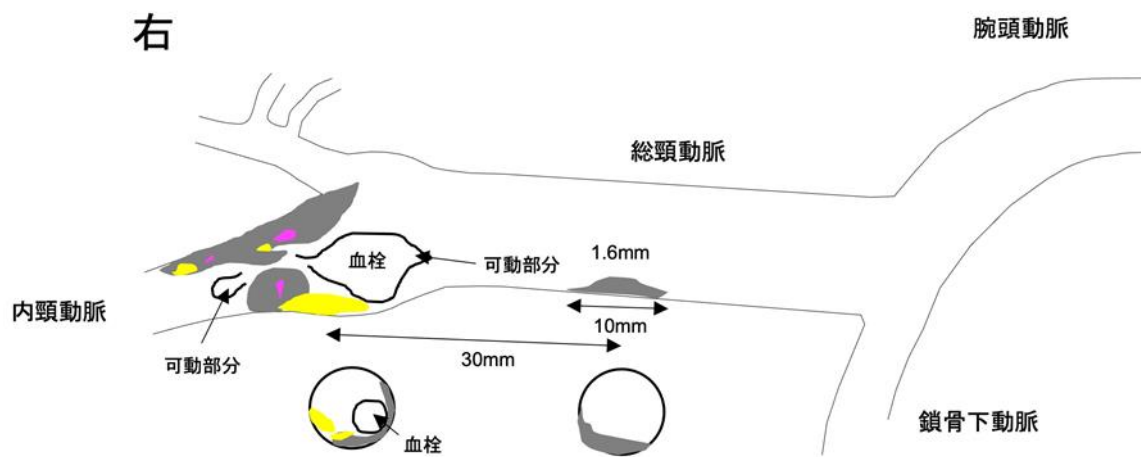
右内頸動脈短軸像



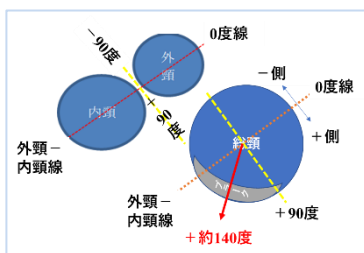
右内頸動脈パルスドプラ像

SMI : Superb Micro-vascular Imaging

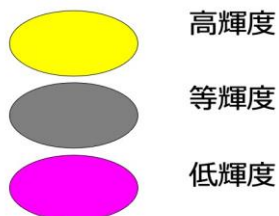
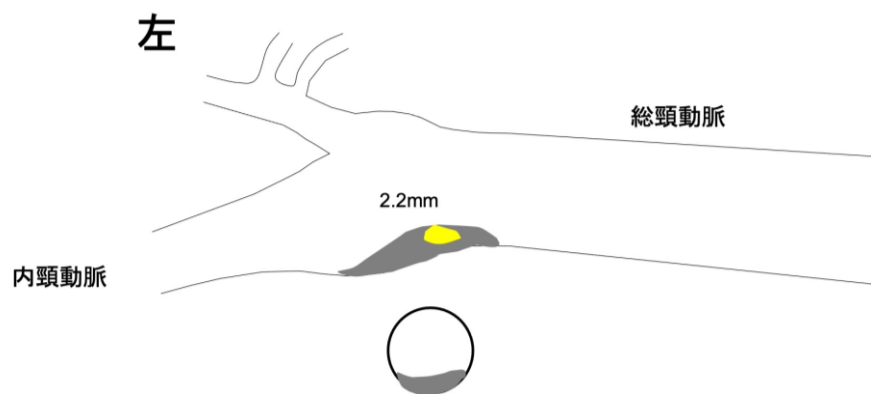
[スケッチ記入欄] ※全体像がわかるようパソコンで作成したシェーマを用いること。強調したい所見については、手書きによるスケッチ図を追加してもよい。



総頸動脈
プラーク
短軸位置
説明図



(注：表示は、0度線から時計回りで
360° 表示も可)



CCA : Common Carotid Artery
ICA : Internal Carotid Artery
ECA : External Carotid Artery
VA : Vertebral Artery
PSV : Peak systolic velocity